

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	フリースマイル横浜港南Ⅲ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 7日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2026年 1月 7日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員が一つのチームとして連携しながら支援を行っている点です。個別支援計画の作成段階から日々の活動に至るまで、子ども一人ひとりの状況や特性について職員同士で丁寧に話し合い、共通理解を図りながら支援内容を決定しています。また、月に一度ミーティングを定期的に実施し、業務の振り返りや課題の共有、改善策の検討を行っています。継続的に話し合いの場を設けることで、支援の質の向上と業務改善に取り組んでおります。	日々、子ども達の情報を共有する時間を毎日設け、その日の様子や小さな変化も共有することで、統一した支援につなげています。また、日々の活動内容は固定せず、子ども達の特性や毎日の状態に応じて柔軟に変更しています。安心して過ごせる環境づくりを大切にしながら、個々の成長を促す支援を心がけています。さらに、子どもたちが過ごす環境の整備や、職員の業務内容についても定期的に見直しを行い、「どうすれば良くなるか」という視点で提案や意見交換をしています。	今後は、これまでの取り組みを継続しながら、支援内容の記録や振り返りを整理し、支援の見える化を進めていきます。また、外部研修への参加や専門的知識の共有機会を増やし、職員一人ひとりの専門性向上を図ります。保護者との連携についても、日々の情報共有に加え、定期的な面談やアンケートを通してご意見を伺い、より満足度の高い支援体制を構築していきます。職員一同がチームとして協力しながら、子ども達一人ひとりに寄り添った質の高い支援の提供に努めてまいります。
2	放課後等デイサービス計画の内容や日々の活動の様子、変更点などについて、保護者の皆様へ必要な情報を丁寧かつ確実に発信している点です。また、お子さまの成長や取り組みの様子が具体的に伝わるよう心がけ、安心してご利用いただける関係づくりを大切にしております。	保護者の方との信頼関係を築くため、日々のサービス提供記録や送迎時の口頭での報告などを通して、その日の様子や小さな変化も丁寧にお伝えしています。また、支援内容やイベント等に変更があった場合には速やかに共有し、ご家庭と共通理解を持てるよう努めています。保護者の方からのご意見やご家庭での様子も積極的に伺ったりとコミュニケーションを大切にしています。	今後は、支援のならいや達成状況をより分かりやすく整理し、成長の過程が見える情報発信を強化していきます。また、定期的なアンケートや面談の機会を設けることで、保護者の方のご意見をより積極的に取り入れ、支援の質の向上につなげていきます。安心感と信頼感を高められる事業所運営を目指してまいります。
3	子どもたちにとって「安心できる場所」「通うことが楽しみな場所」となっている点です。日々、子どもたちが笑顔で過ごし、自分らしくいられる環境づくりを大切にしています。保護者の方々との信頼関係がしっかりと築けているところも大きな強みだと思っています。さらに、保育所等訪問支援においても、関係機関と連携を図りながら丁寧な支援を行っています。	子どもたちが安心して過ごせるよう、職員は一人ひとりの特性や気持ちに寄り添い、肯定的な関わりを意識しています。小さな成功体験を積み重ねられるよう支援内容を工夫し、「できた」「楽しい」という気持ちを大切にしています。また、落ち着いて過ごせる空間づくりや安全面への配慮を徹底し、安心感につながる支援体制を整えています。保育所等訪問支援においては、訪問先との情報共有を密に行い、子どもが集団生活の中で安心して力を発揮できるよう橋渡しの役割を意識しています。	支援の質をさらに高めるため、職員研修や事例検討の機会を充実させ、専門性の向上を図っていきます。また、子どもや保護者の声をより積極的に取り入れるため、アンケートや定期的な面談の機会を活用し、より高い支援体制を目指します。保育所等訪問支援についても、関係機関との連携をさらに強化し、よりよい支援が提供できる体制づくりに努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムや、保護者の方が参加できる研修会・情報提供の機会が十分に確保できていない点が挙げられます。日々の連絡や個別のやり取りは行っているものの、学びや交流の場を設ける機会が少ない現状があります。	日々の支援業務を優先する中で、家族支援に特化した企画や準備の時間を十分に確保できていないことが考えられます。また、保護者の就労状況や生活スタイルが多様化しているため、参加しやすい日時や開催方法の設定が難しいことも一因となっていると考えられます。	今後は、家族支援を事業所の重要な役割の一つとして位置づけ、年間計画の中に保護者向け研修会や情報共有の機会を予定していきます。また、対面開催だけでなく、資料配布やオンライン形式の活用など多様な参加方法を検討し、より参加しやすい環境づくりを進めていけるよう考えていけるように努めてまいります。
2	学校や医療機関、相談支援事業所など、様々な関係機関との連携が十分とは言えない点が挙げられます。日々の支援は事業所内で完結することが多く、外部機関との情報共有や連携の機会が限られている現状があります。	日々の支援業務を優先する中で、関係機関と連絡・調整を行う時間の確保が十分でなかったことが考えられます。また、連携の目的や方法についての明確な仕組みづくりが不十分であったことも一因だと考えられます。	関係機関と計画的に連絡・調整の機会を設けていきます。また、連携の目的や手順を明確にし、職員間で共有することで、スムーズな情報交換が行えるよう体制を整えます。必要に応じて保護者の同意を丁寧に得ながら、安心して情報共有ができる環境づくりを進めてまいります。さらに、地域の関係機関との交流や研修会への参加を通して顔の見える関係づくりを行い、継続的な連携につなげていけるよう努めてまいります。
3	フリースマイルⅢにおける取り組み内容について、常勤職員と非常勤職員の間で理解度や関わり方に差が生じている点が挙げられます。支援に対する姿勢や基本方針は共有しているものの、日々の実践において関与の度合いや情報共有の深さに差が見られることがあります。	勤務形態の違いにより、情報共有や会議への参加機会に差があることが考えられます。特に非常勤職員は勤務時間が限られているため、事業所の方針や新たな取り組みについて十分に共有しきれないのが現状です。また、役割分担や責任範囲が明確に整理されていない部分があり、それぞれの立場での関わり方にばらつきが生じやすい状況も一因と捉えています。	今後は、勤務形態に関わらず全職員が共通理解のもとで支援に取り組めるよう、情報共有の方法を見直していきます。具体的には、会議内容の記録を分かりやすくまとめて共有することや、短時間でも参加できるミーティングの設定などを検討します。また、常勤・非常勤に関わらず主体的に関われる体制づくりを進めていきます。さらに、日々の声かけや振り返りの機会を増やし、立場を超えて意見を出し合える風通しの良い職場環境を整えていきます。